

2026年度 第2四半期決算報告



2026年10月29日
日本ゼオン株式会社

P.2	総括	※以降、シクロオレフィンポリマーはCOPと記載します。
P.5	事業環境（為替・主原料推移）	
P.6	業績サマリー	
P.7	セグメント別業績	
P.9	高機能材料	P/L
P.10	高機能材料	セグメント別概況
P.11	高機能樹脂事業	： COPの状況
P.12	高機能樹脂事業	： 光学フィルムの状況
P.13	高機能バインダー材料事業	： 電池材料の状況
P.15	高機能ケミカル事業	： 化学品・電子材料の状況
P.17	エラストマー素材	P/L
P.18	エラストマー素材	： 合成ゴムの状況
P.20	B/S概要	
P.21	C/F概要	
P.23	2026年度 業績予想のポイント	
P.25	2026年度 セグメント別業績予想	
P.27	株主還元予想	

2026年度 通期業績予想

売上高

4,300億円
YoY+4%

営業利益

455億円
YoY+25%

経常利益

465億円
YoY+16%

親会社株主に帰属
する当期純利益

430億円
YoY+19%

- ▶ 上期実績および足元の事業環境を踏まえ、2026年度通期業績予想を修正
- ▶ 下期も中東情勢の緊迫状態は継続、原料価格およびユーティリティコストは高止まるとともに、上期のコスト高騰による在庫の影響を受ける想定
- ▶ 想定される不確実性と対応策

項目	想定される不確実性	対応策
調達	原料価格およびユーティリティコストの乱高下	<ul style="list-style-type: none"> ・価格フォーミュラに含まれない固定費を含む原価上昇分をサーチャージ方式で市場へ転嫁 ・お客様とのコミュニケーション強化により、製品在庫は可能な限り削減 ・不要不急のキャッシュアウト抑止
生産	主原料の調達量見合いの操業による固定費の悪化	
出荷	景気悪化による出荷減、原料価格乱高下に伴う製品在庫の影響	

2026年度上期 連結実績

売上高

2,249億円
YoY+9%

営業利益

319億円
YoY+65%

経常利益

336億円
YoY+75%

親会社株主に帰属
する当期純利益

263億円
YoY+18%

【増減の主な要因】

▶ 売上高

- 高機能材料 : 総じて生産・出荷とも堅調、電池材料とCOPの出荷増でYoY+13%
- エラストマー素材 : Q1ホルムズ海峡封鎖に伴う主原料の調達量見合いでの生産、Q2主力工場定期検査で出荷調整が続くも、原価上昇分の販売価格への転嫁が進み、為替円安影響と併せYoY+7%

▶ 営業利益

- 高機能材料 : 上記に加え、光学フィルムの棚卸資産関連費用の減少により YoY+63%
- エラストマー素材 : 上記に加え、前期末在庫の影響によりYoY+66%

▶ 経常利益 : 営業利益増に加え、受取保険金が発生し増加

▶ 当期純利益 : 投資有価証券売却益の計上時期ずれが発生するも、経常利益増により増加

P.2 総括

P.5 事業環境（為替・主原料推移）

P.6 業績サマリー

P.7 セグメント別業績

P.9 高機能材料

P.10 高機能材料

P.11 高機能樹脂事業

P.12 高機能樹脂事業

P.13 高機能バインダー材料事業

P.15 高機能ケミカル事業

P/L

セグメント別概況

：COPの状況

：光学フィルムの状況

：電池材料の状況

：化学品・電子材料の状況

P.17 エラストマー素材

P.18 エラストマー素材

P/L

：合成ゴムの状況

P.20 B/S概要

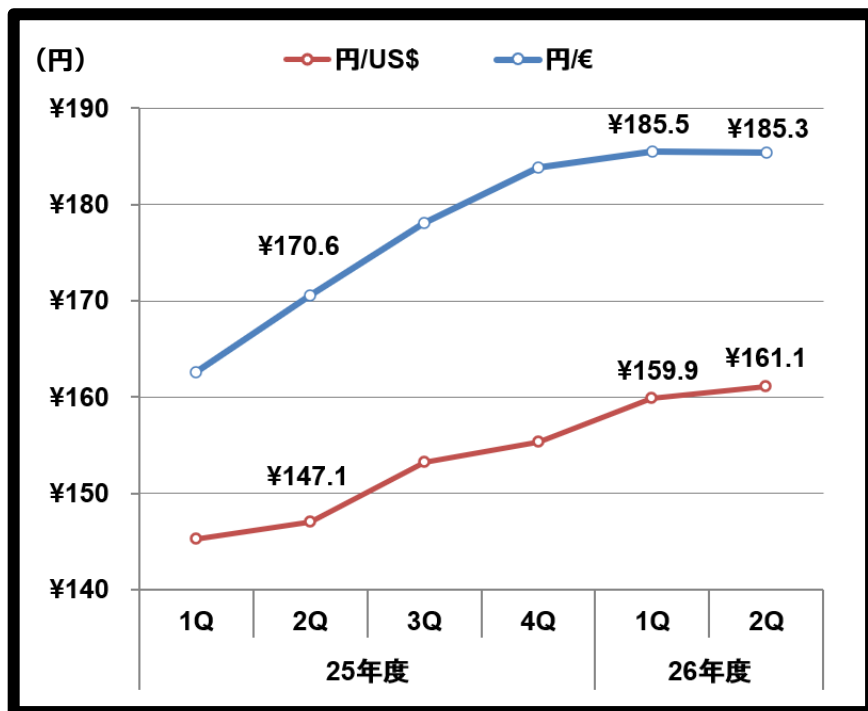
P.21 C/F概要

P.23 2026年度 業績予想のポイント

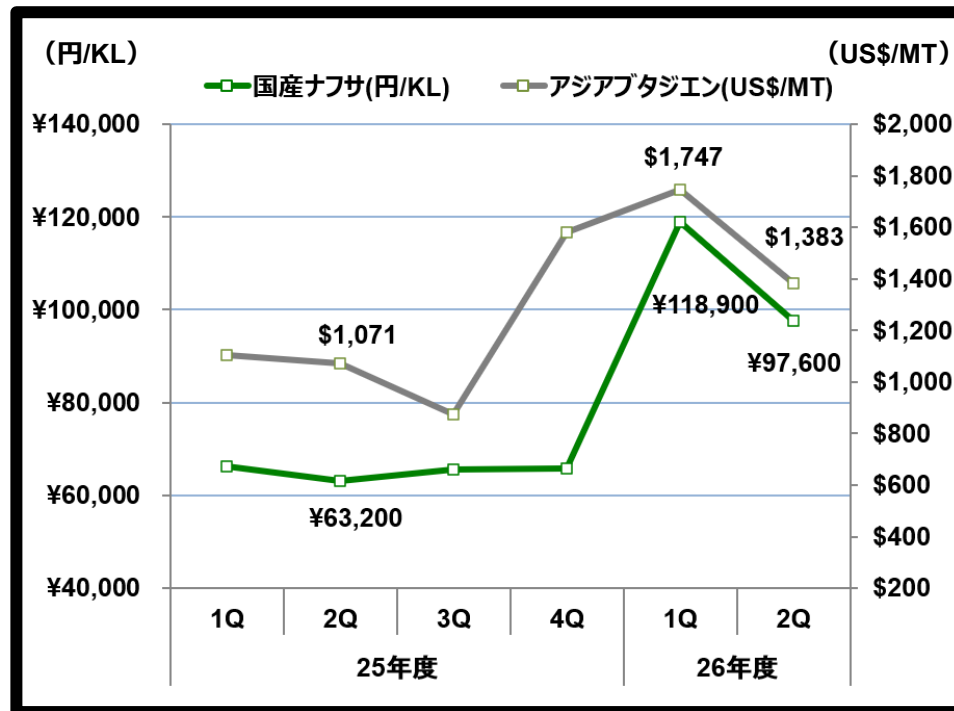
P.25 2026年度 セグメント別業績予想

P.27 株主還元予想

【為替推移】



【主原料推移】



		2025年度 Q2	2026年度 Q1	2026年度 Q2	YoY 変化率	QoQ 変化率
為替	円/US\$	¥147.1	¥159.9	¥161.1	+9%	+1%
	円/€	¥170.6	¥185.5	¥185.3	+9%	-
主原料	国産ナフサ/KL	¥63,200	¥118,900	¥97,600	+54%	▲ 18%
	アジアブタジエン/MT	\$1,071	\$1,747	\$1,383	+29%	▲ 21%

※国産ナフサ：2025年度Q2 及び 2026年度Q1 は確報値、2026年度Q2は当社見込値

（単位：億円）

	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期	2025年度	2026年度	対前年度
	2025年度 Q2	2026年度 Q1	2026年度 Q2	YoY 増減	QoQ 増減	Q2累計	Q2累計	YoY 増減
売上高	1,034	1,095	1,154	+120	+59	2,065	2,249	+184
営業利益	72	163	156	+84	▲7	194	319	+126
経常利益	72	188	147	+76	▲41	191	336	+144
当期純利益	148	127	136	▲12	+9	223	263	+40

- 前年同期比 ： 売上高 +120億円、営業利益 +84億円
- 前期比 ： 売上高 +59億円、営業利益 ▲7億円
- 前年度上期比 ： 売上高 +184億円、営業利益 +126億円

注）海外関係会社の2026年4～6月実績がQ2連結決算に反映されています。

2026年度Q2 業績サマリー（セグメント別）

ZEON

（単位：億円）

【売上高】	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期	2025年度 Q2累計	2026年度 Q2累計	対前年度
	2025年度 Q2	2026年度 Q1	2026年度 Q2	YoY 増減	QoQ 増減			YoY 増減
高機能材料	330	338	363	+33	+24	623	701	+78
エラストマー素材	545	582	623	+78	+41	1,125	1,204	+79
その他の事業、消去等	159	175	169	+10	▲6	316	343	+27
売上高合計	1,034	1,095	1,154	+120	+59	2,065	2,249	+184

【営業利益】	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期	2025年度 Q2累計	2026年度 Q2累計	対前年度
	2025年度 Q2	2026年度 Q1	2026年度 Q2	YoY 増減	QoQ 増減			YoY 増減
高機能材料	43	101	90	+47	▲11	117	192	+74
エラストマー素材	23	55	52	+30	▲3	65	108	+43
その他の事業、消去等	6	6	13	+7	+7	11	20	+9
営業利益合計	72	163	156	+84	▲7	194	319	+126

P.2	総括	
P.5	事業環境（為替・主原料推移）	
P.6	業績サマリー	
P.7	セグメント別業績	
P.9	高機能材料	P/L
P.10	高機能材料	セグメント別概況
P.11	高機能樹脂事業	：COPの状況
P.12	高機能樹脂事業	：光学フィルムの状況
P.13	高機能バインダー材料事業	：電池材料の状況
P.15	高機能ケミカル事業	：化学品・電子材料の状況
P.17	エラストマー素材	P/L
P.18	エラストマー素材	：合成ゴムの状況
P.20	B/S概要	
P.21	C/F概要	
P.23	2026年度 業績予想のポイント	
P.25	2026年度 セグメント別業績予想	
P.27	株主還元予想	

(単位：億円)

	2025年度 Q2	2026年度 Q1	2026年度 Q2	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
売上高	330	338	363	33	10 %	24	7 %
高機能樹脂	231	212	237	5	2 %	25	12 %
高機能バインダー材料	63	75	79	17	27 %	4	6 %
高機能ケミカル	32	45	42	10	31 %	▲ 4	▲ 8 %
メディカル他	4	6	5	1	14 %	▲ 1	▲ 16 %
営業利益	43	101	90	47	108 %	▲ 11	▲ 11 %
高機能樹脂	39	68	69	30	77 %	1	1 %
高機能バインダー材料	12	26	22	11	92 %	▲ 4	▲ 15 %
高機能ケミカル	▲ 1	9	5	6	- %	▲ 4	▲ 44 %
メディカル他	▲ 6	▲ 2	▲ 6	1	- %	▲ 3	- %
営業利益率	13%	30%	25%				

サブセグメント区分

高機能樹脂	: COP、光学フィルム
高機能バインダー材料	: 電池材料、トナー
高機能ケミカル	: 化学品、電子材料

高機能材料

売上高 **363** 億円 (YoY+10%、QoQ+7%)

営業利益 **90** 億円 (YoY+108%、QoQ▲11%)

高機能樹脂

売上高 **237** 億円 (YoY+2%、QoQ+12%)

営業利益 **69** 億円 (YoY+77%、QoQ+1%)

メモリ不足でモバイル端末向けは弱含むも、大型フィルムは堅調で増収増益
Q1のまとめ出荷および船積み都合によるQ3への出荷期ずれの影響があるものの、年度では出荷増を見込む

高機能 バインダー材料

売上高 **79** 億円 (YoY+27%、QoQ+6%)

営業利益 **22** 億円 (YoY+92%、QoQ▲15%)

メモリ不足でモバイル端末向けは振るわず、一方でEVおよびESS向け電池材料の出荷増で増収増益
なかでも正極材の出荷が増えたことで営業利益は大幅に増加
採用拡大・新規開発等の活動強化により販管費が増加し、QoQは減益

高機能ケミカル

売上高 **42** 億円 (YoY+31%、QoQ▲8%)

営業利益 **5** 億円 (YoY+6億円、QoQ▲44%)

半導体向け特殊溶剤、合成香料の出荷増により増収増益
半導体向け特殊溶剤は堅調となるも、合成香料はQ1まとめ出荷による調整が影響
半導体向け特殊溶剤、エッチングガスは年度で出荷増を見込むも、合成香料は市況価格低迷が継続

		YoY	QoQ	YoY累計 (4-9月)
当社製品の 出荷動向	光学用途向け			
	医療その他向け			
	半導体用途向け			

■ 光学用途向け

スマートフォン向けを中心に出荷減少も、セキュリティカメラおよび車載向けが堅調により、累計では前年並みを維持

■ 医療その他向け

船積み時期のずれによりQoQでは減少も、年度全体の需要は引き続き堅調

■ 半導体用途向け

半導体FAB建設需要を背景に堅調に推移

		YoY	QoQ	YoY累計 (4-9月)
当社製品の 出荷動向	中小型向け			
	大型向け			

■ 中小型向け

需要期にあたりQoQは増加するも、メモリ不足および価格高騰の影響を受け累計では低調

■ 大型向け

顧客の高稼働および大型TV向けのシェア拡大により、堅調に推移

		YoY	QoQ	YoY累計 (4-9月)
当社製品の 出荷動向	EV向け			
	ESS向け			
	民生他向け			

■ EV向け

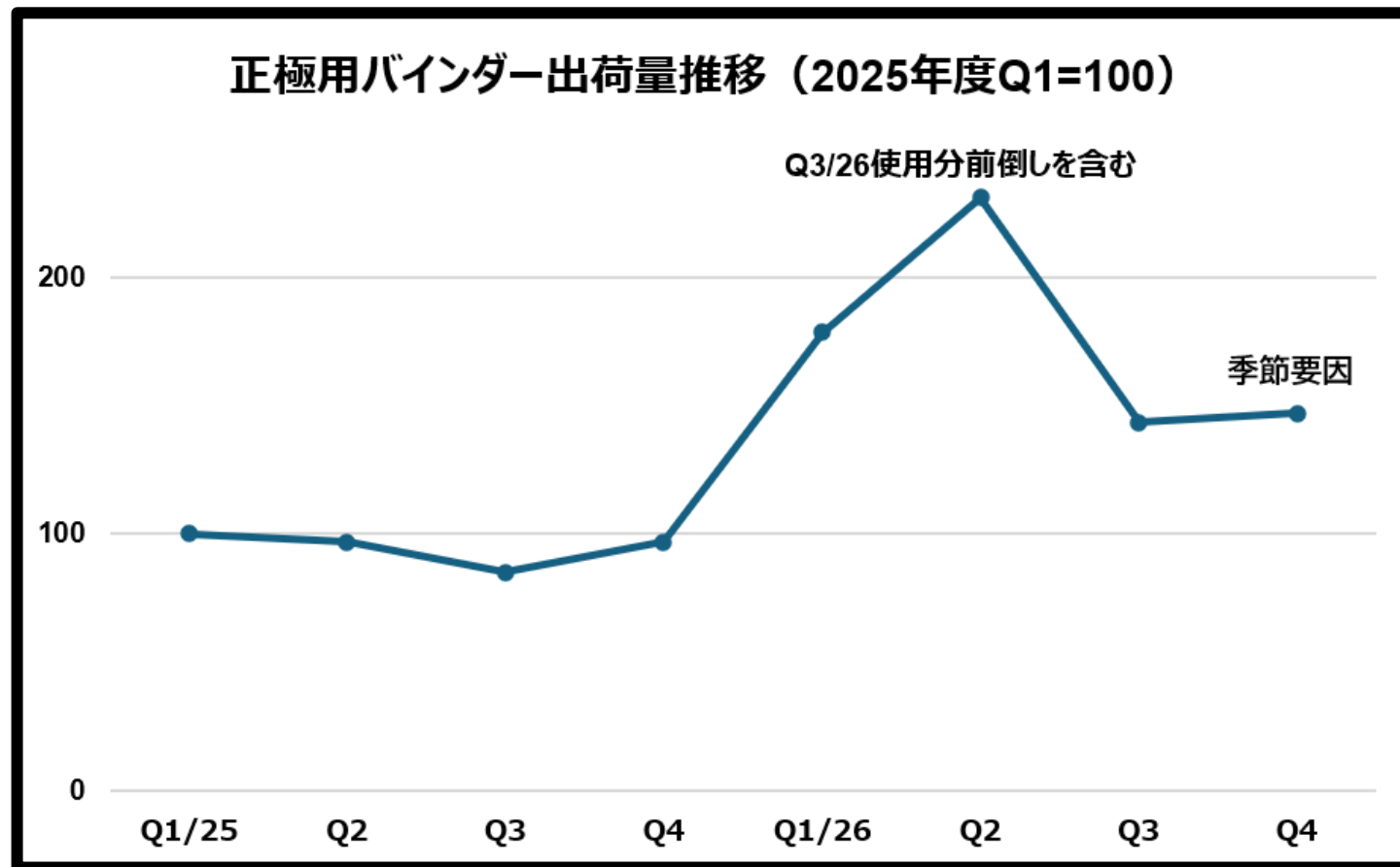
補助金政策の再開を背景に、欧州での需要堅調が継続

■ ESS向け

系統用、AIデータセンター向け等の需要は堅調、一部顧客の生産調整によりQoQでは一時的に減少するも、累計では堅調

■ 民生他向け

メモリ不足および価格高騰の影響を受け、モバイル端末向けは低調



- 正極用バインダー下期出荷量は、上期前倒しの影響および中国春節による出荷減の影響を受けるも、26年度から四半期出荷量のボトムは切り上がる
- 年度YoYで約8割の出荷増を見込む

		YoY	QoQ	YoY累計 (4-9月)
当社製品の 出荷動向	半導体・医療向け	▲	▲	▲
	合成香料向け	▲	▼	▲

■ 半導体向け

旺盛なAI関連投資を背景に、半導体・医療向け需要は堅調に推移

■ 合成香料向け

市況低迷が継続する中、販売拡大によりYoYでは増加も、Q1の顧客在庫積み増しの反動によりQoQでは減少

P.2	総括	
P.5	事業環境（為替・主原料推移）	
P.6	業績サマリー	
P.7	セグメント別業績	
P.9	高機能材料	P/L
P.10	高機能材料	セグメント別概況
P.11	高機能樹脂事業	：COPの状況
P.12	高機能樹脂事業	：光学フィルムの状況
P.13	高機能バインダー材料事業	：電池材料の状況
P.15	高機能ケミカル事業	：化学品・電子材料の状況
P.17	エラストマー素材	P/L
P.18	エラストマー素材	：合成ゴムの状況
P.20	B/S概要	
P.21	C/F概要	
P.23	2026年度 業績予想のポイント	
P.25	2026年度 セグメント別業績予想	
P.27	株主還元予想	

(単位：億円)

	2025年度 Q2	2026年度 Q1	2026年度 Q2	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
売上高	545	582	623	78	14 %	41	7 %
合成ゴム	424	443	479	55	13 %	36	8 %
その他・消去	121	139	144	23	19 %	5	4 %
営業利益	23	55	52	30	130 %	▲ 3	▲ 5 %
合成ゴム	32	52	55	23	73 %	3	6 %
その他・消去	▲ 9	3	▲ 3	6	- %	▲ 6	▲ 181 %
営業利益率	4%	10%	8%				

※2026年度より合成ラテックス、化成品は「その他・消去」に包含

■ 合成ゴムの状況

- ・原価上昇分の販売価格への転嫁により、増収増益
- ・特殊ゴムを中心に需要は底堅く推移

		YoY	QoQ	YoY累計 (4-9月)
当社製品の 出荷動向	特殊ゴム	↗	↗	→
	汎用ゴム	→	→	↘

■ 特殊ゴム

国内自動車向けを中心に需要は堅調に推移

■ 汎用ゴム

原料調達リスクへの対応としてスポット販売を抑制、累計出荷は前年同期比で減少

P.2	総括	
P.5	事業環境（為替・主原料推移）	
P.6	業績サマリー	
P.7	セグメント別業績	
P.9	高機能材料	P/L
P.10	高機能材料	セグメント別概況
P.11	高機能樹脂事業	：COPの状況
P.12	高機能樹脂事業	：光学フィルムの状況
P.13	高機能バインダー材料事業	：電池材料の状況
P.15	高機能ケミカル事業	：化学品・電子材料の状況
P.17	エラストマー素材	P/L
P.18	エラストマー素材	：合成ゴムの状況
P.20	B/S概要	
P.21	C/F概要	
P.23	2026年度 業績予想のポイント	
P.25	2026年度 セグメント別業績予想	
P.27	株主還元予想	

(単位：億円)

総資産6,055億円 (+572)

【流動資産】

+218億円

- ◆ 現預金 +64億円
- ◆ 売掛債権 +50億円
- ◆ 未収入金 +9億円
- ◆ 棚卸資産 +89億円

流動資産
2,793
(+218)

固定資産
3,262
(+355)

【固定資産】

+355億円

- ◆ 有形固定資産 +256億円
- ◆ 投資有価証券 +111億円

【流動負債】

+308億円

- ◆ 買入債務 +80億円
- ◆ コマーシャルペーパー +110億円
- ◆ 未払金等 +118億円

流動負債
1,750
(+308)

固定負債 239 (▲18)

純資産
4,065
(+283)

【純資産】

+283億円

- ◆ 自己資本比率 67.1% (▲1.8)
- ◆ D/Eレシオ 0.07 (+0.02)

(単位：億円)

2025年度Q2

2026年度Q2

481

295

▲ 8

10

▲ 253

▲ 302

■ 営業CF ■ 投資CF ■ 財務CF

(単位：億円)

	2025年度Q2	2026年度Q2
営業CF	481	295
投資CF	▲ 8	▲ 253
フリーCF	473	42
財務CF	▲ 302	10
CF	171	52

【営業CF】 ▲187億円

- ◆ 税前提利益 +55億円
- ◆ 税金 ▲70億円
- ◆ 減価償却費 +13億円
- ◆ 運転資金 ▲309億円
- ◆ 引当金 +82億円
- ◆ その他 +42億円

【財務CF】 +312億円

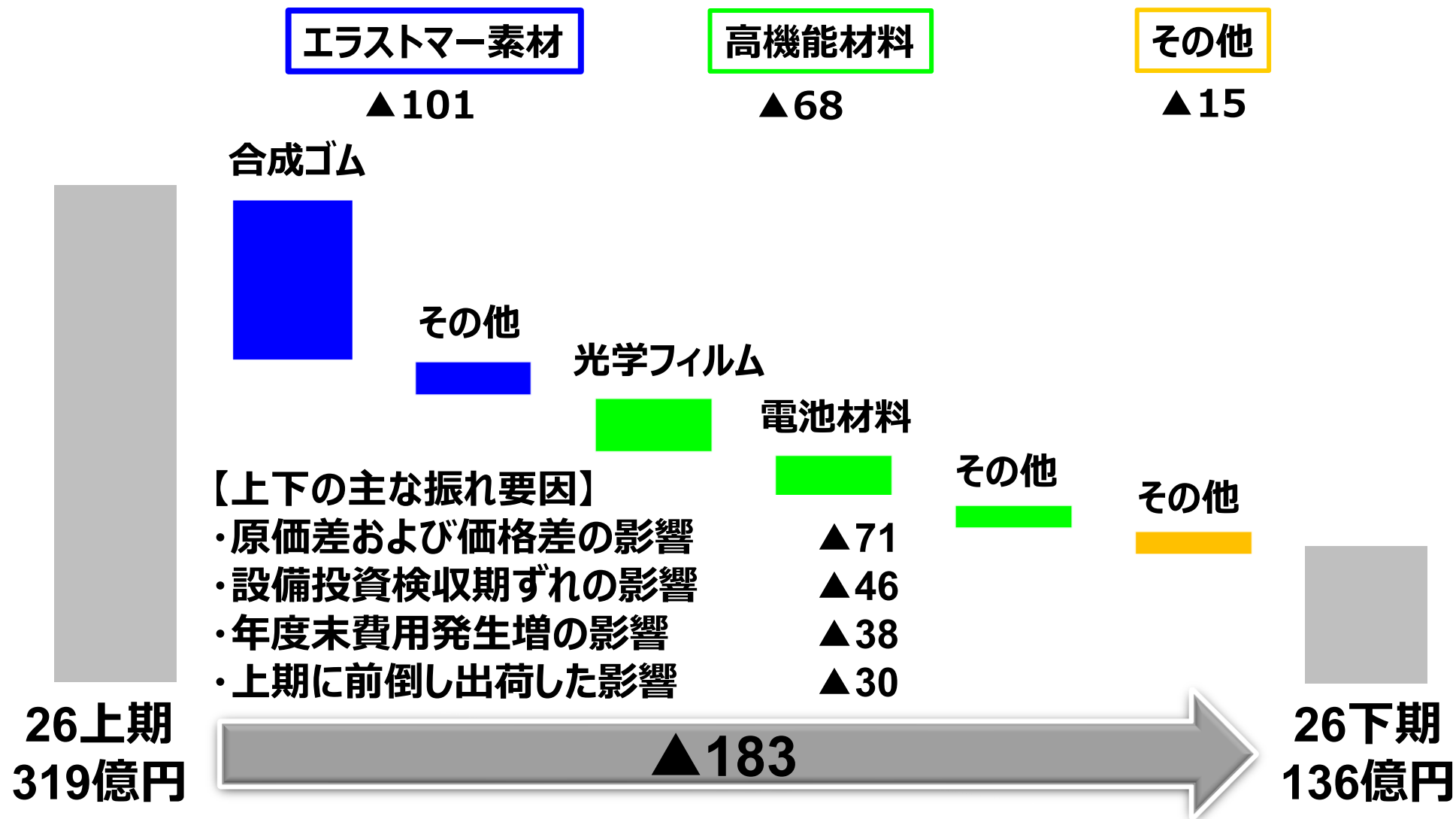
- ◆ 資金調達 +280億円
- ◆ 配当金 ▲8億円
- ◆ その他 +40億円

P.2	総括	
P.5	事業環境（為替・主原料推移）	
P.6	業績サマリー	
P.7	セグメント別業績	
P.9	高機能材料	P/L
P.10	高機能材料	セグメント別概況
P.11	高機能樹脂事業	：COPの状況
P.12	高機能樹脂事業	：光学フィルムの状況
P.13	高機能バインダー材料事業	：電池材料の状況
P.15	高機能ケミカル事業	：化学品・電子材料の状況
P.17	エラストマー素材	P/L
P.18	エラストマー素材	：合成ゴムの状況
P.20	B/S概要	
P.21	C/F概要	
P.23	2026年度 業績予想のポイント	
P.25	2026年度 セグメント別業績予想	
P.27	株主還元予想	

2026年度 業績予想のポイント（営業利益差異）

ZEON

（単位：億円）



2026年度 業績予想のポイント（営業利益差異）

ZEON

（単位：億円）

エラストマー素材

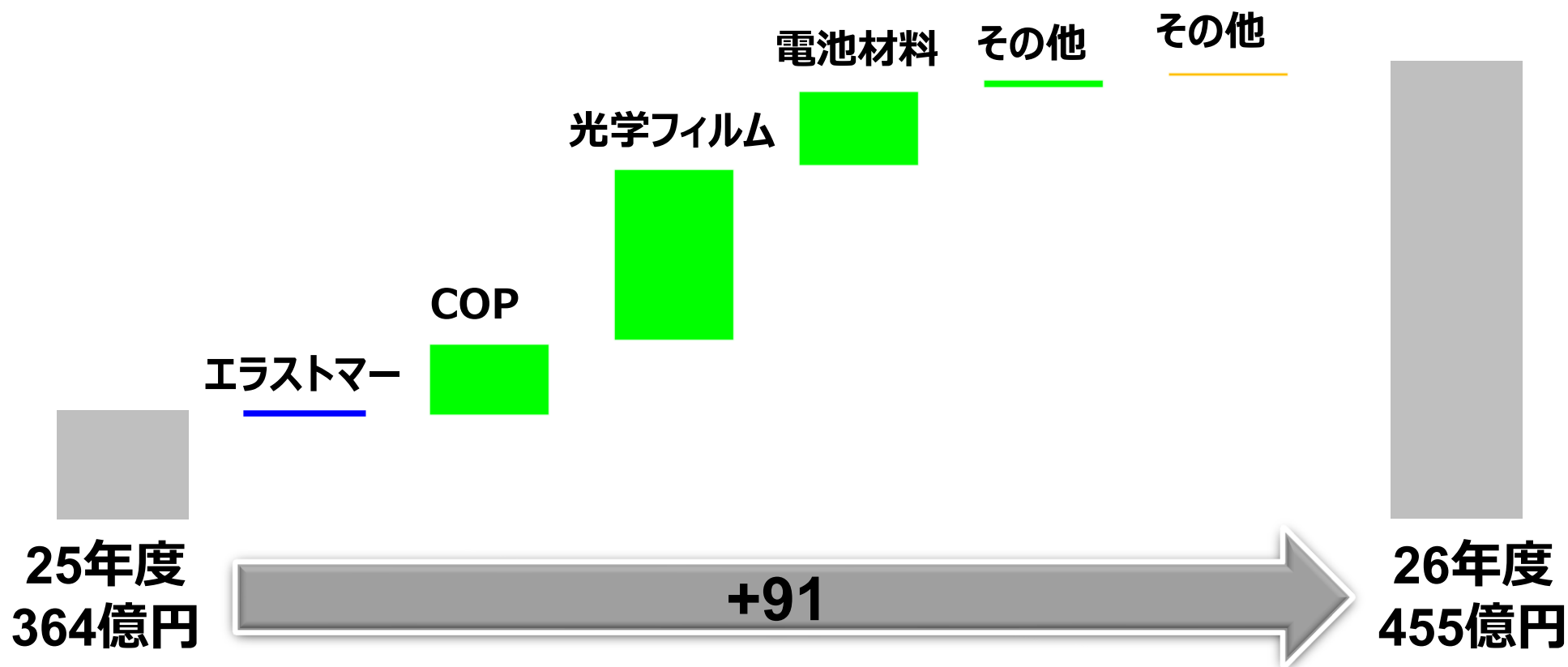
▲2

高機能材料

+91

その他

+2



2026年度 セグメント別業績予想

ZEON

(単位：億円)

【売上高】	業績予想 (26/5/13時点)	業績予想 (26/10/29時点)	差異
	年間	年間	
高機能材料	1,250	1,340	+90
エラストマー素材	2,195	2,315	+120
その他の事業、消去等	605	645	+40
売上高合計	4,050	4,300	+250

【営業利益】	業績予想 (26/5/13時点)	業績予想 (26/10/29時点)	差異
	年間	年間	
高機能材料	280	315	+35
エラストマー素材	85	115	+30
その他の事業、消去等	15	25	+10
営業利益合計	380	455	+75

- ・ 5/13 予想前提 : US\$=150円、€=175円、国産ナフサ/KL=¥63,000、アジアブタジエン/MT=US\$950
- ・ 10/29 下期予想前提 : US\$=157円、€=178円、国産ナフサ/KL=¥102,000、アジアブタジエン/MT=US\$1,400
- ・ 営業利益への為替影響（年間）は、1円/US\$: 約4億円、1円/€ : 約1億円、円安により増加

P.2	総括	
P.5	事業環境（為替・主原料推移）	
P.6	業績サマリー	
P.7	セグメント別業績	
P.9	高機能材料	P/L
P.10	高機能材料	セグメント別概況
P.11	高機能樹脂事業	：COPの状況
P.12	高機能樹脂事業	：光学フィルムの状況
P.13	高機能バインダー材料事業	：電池材料の状況
P.15	高機能ケミカル事業	：化学品・電子材料の状況
P.17	エラストマー素材	P/L
P.18	エラストマー素材	：合成ゴムの状況
P.20	B/S概要	
P.21	C/F概要	
P.23	2026年度 業績予想のポイント	
P.25	2026年度 セグメント別業績予想	
P.27	株主還元予想	

株主還元方針

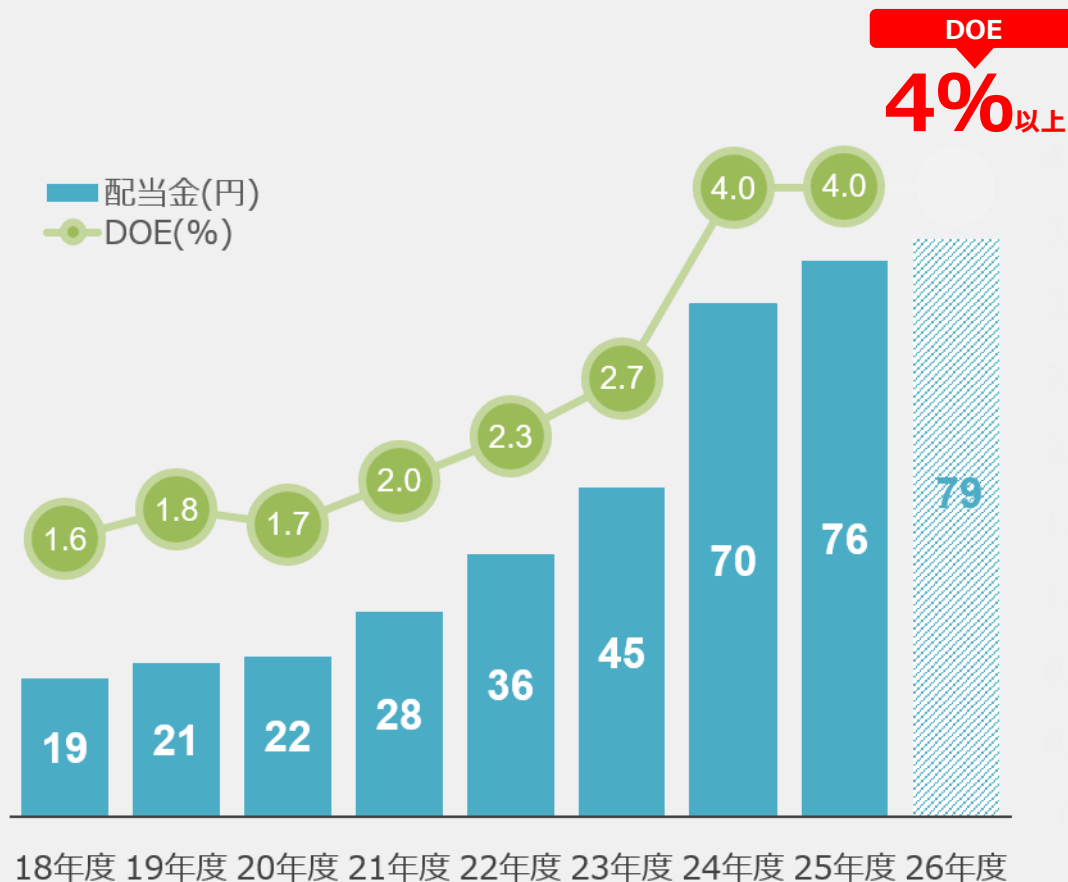
- 1 配当のKPIとしてDOEを採用し、
DOE4%以上とする

- 2 自己株式取得（計画）

24年度－26年度

400億円

- 2024年度 200億円（完了）
- 2025年度 100億円（完了）
- 2026年度 100億円（予定）



- 配当金はDOE4%以上の方針に基づき、年度末に見直しを行う予定
- 年間配当額は79円を予想（YoY+3円、2010年度から17期連続増配予想）
- 2026年度自己株式の取得は時期を精査のうえ実施予定

本資料に掲載されている当社の計画や見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる結果になる場合があります。

**2026年度
Q3決算発表**

2027年1月29日を予定

※上記の予定は、都合により予告なく変更する場合がございます

以 上

**統合報告書2026年度版
を発行しました
[こちら](#)**

参考：2025年度までのセグメント区分による業績推移

ZEON

(単位：億円)

2023年度 2024年度 2025年度 2026年度 2026年度

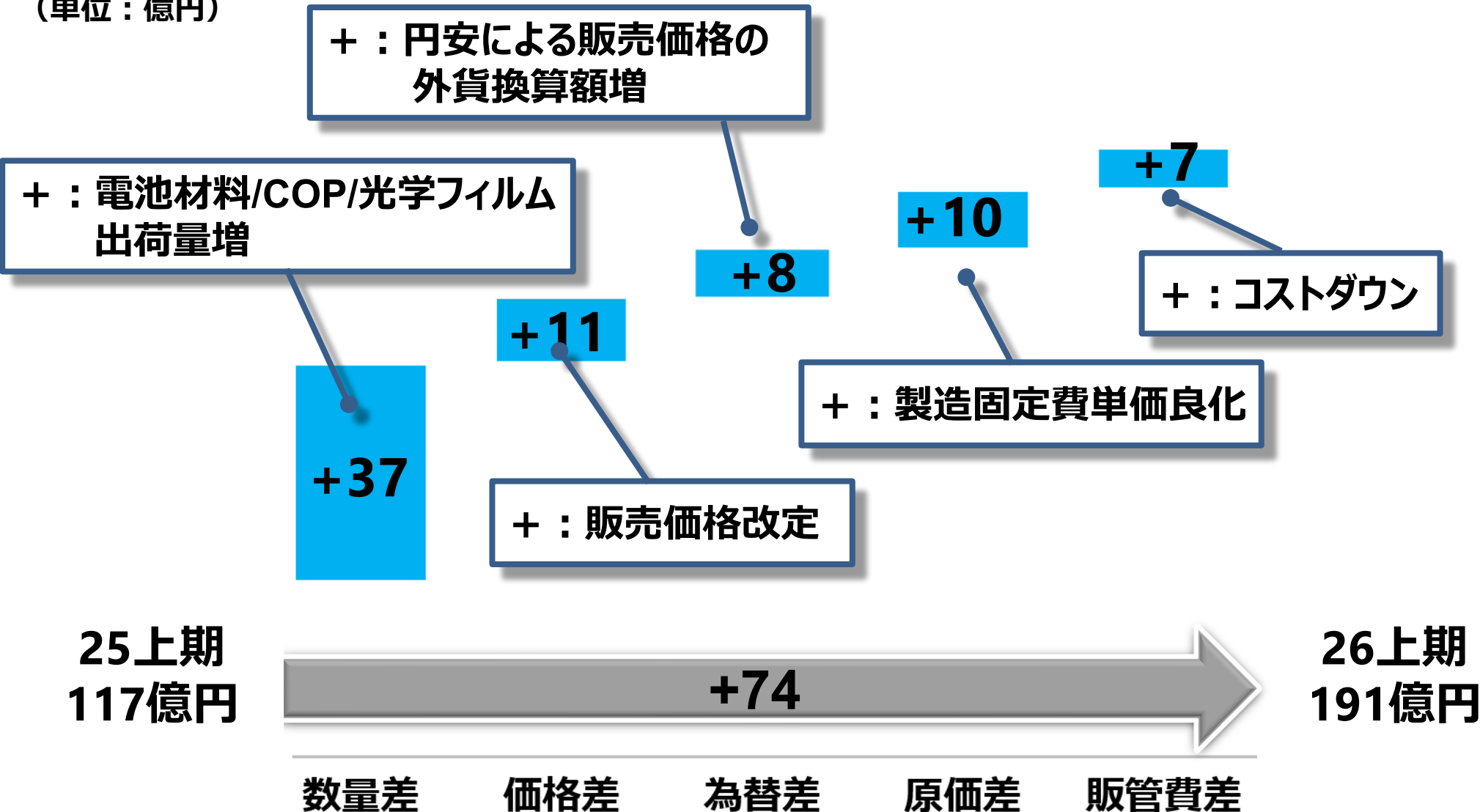
				Q1	Q2
売上高	3,823	4,206	4,120	1,095	1,154
高機能材料事業	1,074	1,216	1,242	338	363
高機能樹脂	642	793	831	212	237
高機能バインダー材料	234	225	237	75	79
高機能ケミカル	156	158	146	45	42
メディカル他	43	39	28	6	5
エラストマー素材事業	2,153	2,366	2,237	582	623
合成ゴム	1,642	1,769	1,727	443	479
ラテックス	109	142	111	24	28
化成品	350	403	355	107	108
その他・消去	52	52	43	7	8
その他の事業、消去等	596	625	641	175	169

2026年度より合算して
「その他・消去」に区分

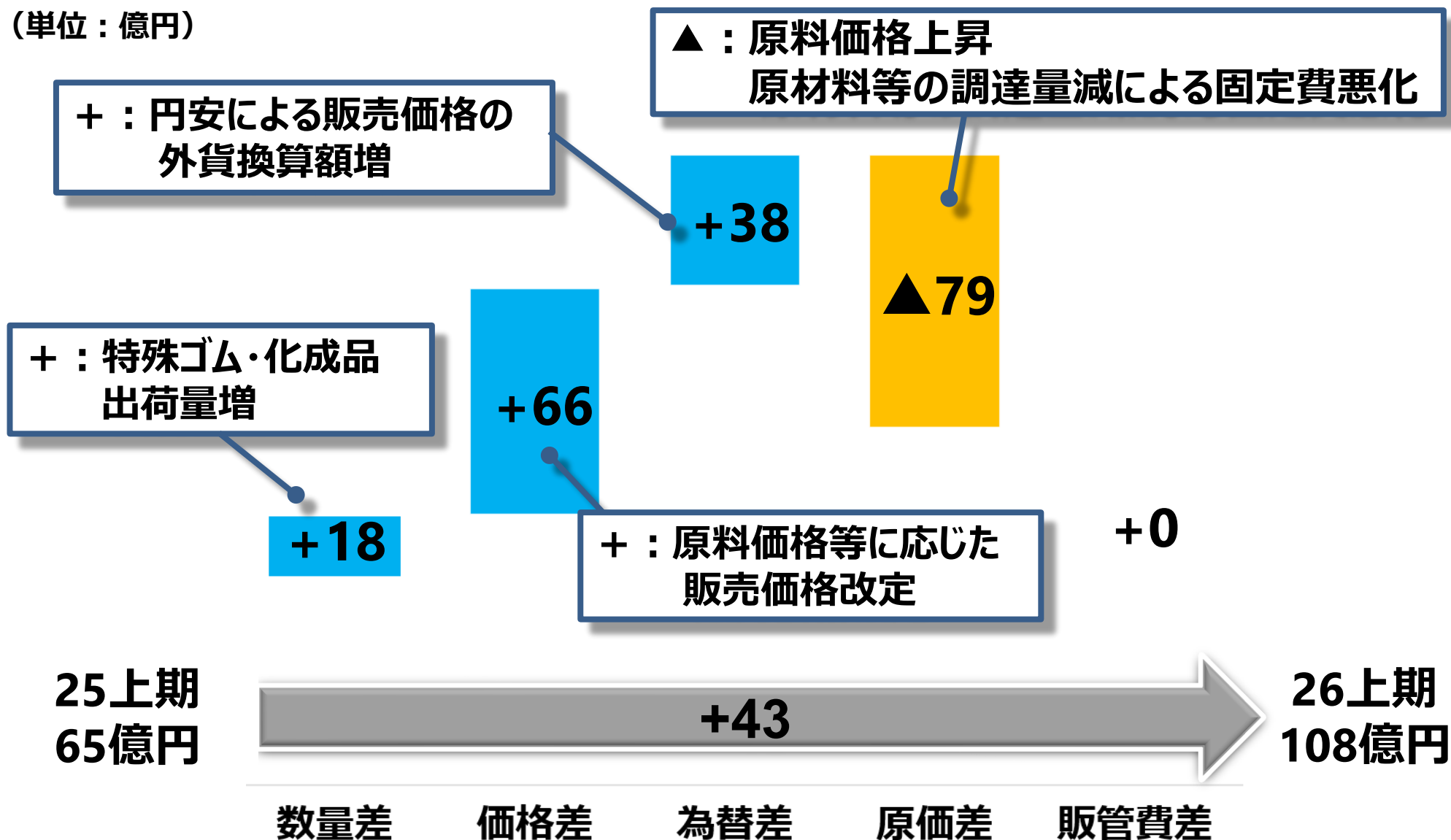
2023年度 2024年度 2025年度 2026年度 2026年度

				Q1	Q2
営業利益	205	293	364	163	156
高機能材料事業	132	176	224	101	90
高機能樹脂	73	139	175	68	69
高機能バインダー材料	44	22	42	26	22
高機能ケミカル	21	19	22	9	5
メディカル他	▲ 5	▲ 4	▲ 15	▲ 2	▲ 6
エラストマー素材事業	66	109	117	55	52
その他の事業、消去等	6	8	23	6	13

(単位：億円)



（単位：億円）



（単位：億円）

▲：COP出荷量減
需要前倒し・出荷時期ずれ

+：販売価格改定

▲：光学フィルム
棚卸資産関連費用



+0



+0

26/Q1
101億円



26/Q2
90億円

参考：エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異（QoQ） ZEON

（単位：億円）

+：円安による販売価格の
外貨換算額増

▲：原料価格上昇

+：特殊ゴム出荷量増

+2

+21

▲41

▲：人件費等上昇

+18

▲2

+：原料価格等に応じた
販売価格改定

26/Q1
55億円

▲3

26/Q2
52億円

数量差

価格差

為替差

原価差

販管費差

参考：営業外損益、特別損益

(単位：億円)

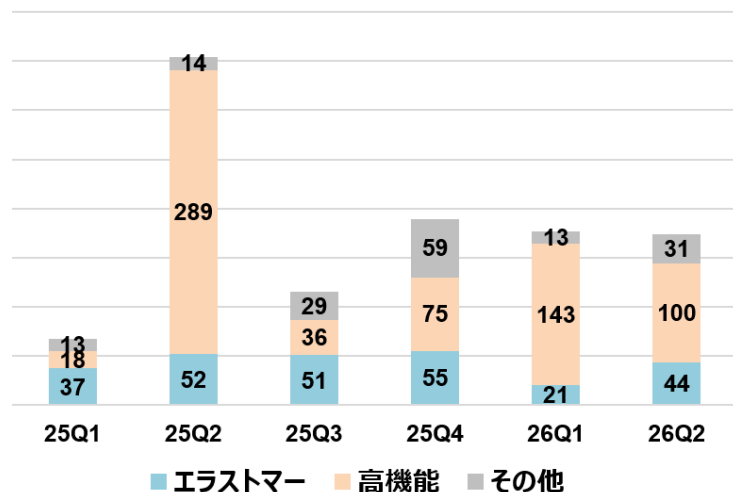
【営業外損益】	2025年度 上期	2026年度 上期	YoY 増減
受取保険金	0	13	+13
受取利息・配当金	17	13	▲3
為替差損益	▲6	▲6	-
休止固定資産費用	▲2	▲4	▲2
貸倒引当金繰入額	▲3	▲3	-
支払利息	▲1	▲2	▲1
その他	▲6	5	+11
営業外損益合計	▲2	16	+18

【特別損益】	2025年度 上期	2026年度 上期	YoY 増減
固定資産処分損	▲3	▲3	▲1
減損損失	▲11	▲9	+2
投資有価証券売却損益	169	57	▲112
投資有価証券評価損	▲21	▲2	+19
その他	0	2	+2
特別損益合計	133	44	▲89

参考：資本的支出、減価償却費の推移

(単位：億円)

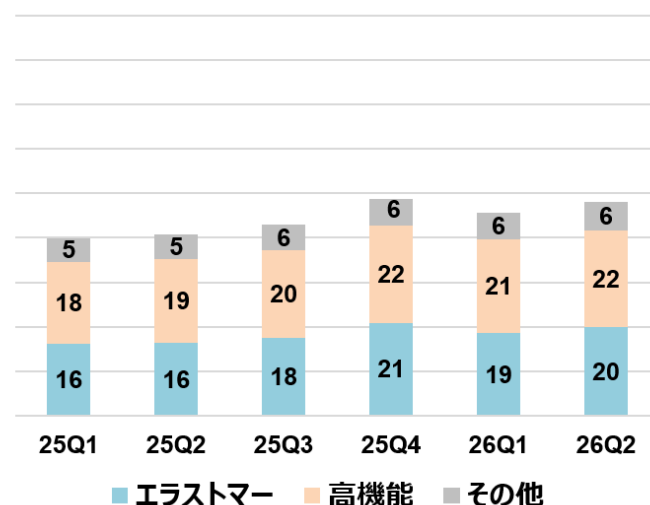
【資本的支出】



25年度実績
727億円

26年度予想
660億円

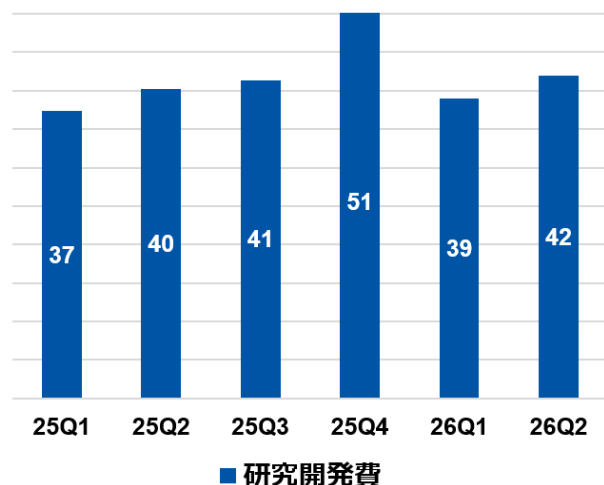
【減価償却費】



25年度実績
172億円

26年度予想
200億円

【研究開発費】



25年度実績
170億円

26年度予想
180億円

- 資本的支出予想を660億円へ修正
- 減価償却費・研究開発費予想は据え置き

アップサイド

エンドマーケット需要の好調

為替の円安化

市況好調

円安ドル高

景気好況

円安ユーロ高

ダウンサイド

エンドマーケット需要の低迷

為替の円高化

市況低調

円高ドル安

景気後退

円高ユーロ安